市民が主役

舞流太鼓のメンバーの皆さん

太鼓の音で心と体を元気にする

清瀬舞舞流太鼓
澤田和美さん、大石千恵子さん、会員の皆さん

太鼓が奏でる力強さとリズムは、聴く人に高揚感を与え、息の合った演奏は見る人を圧倒します。舞流太鼓は、他の太鼓団体にはないオリジナリティーを目指し、新たな組太鼓を創作している太鼓の会です。

今号は、「地域住民との親睦及び交流を図り、奉仕の精神を大事にして活動しながら地域に根ざした芸能となる」ことを目的とする、清瀬舞流太鼓の澤田副会長、後援会の大石会長や9人の会員の皆さんに、お話を伺いました。

舞流太鼓の結成は1997年8月です。会長は、もともと他の太鼓グループに所属していましたが、7年間太鼓の基礎を学び腕を磨いた後、新たな和太鼓の可能性を求めて、おとなだけの会を作ろうと模索し、その意思に賛同して集まった清瀬市民を中心とした5人により結成しました。

当初の活動は、民謡踊り「穐本会」の先生方のご尽力により、市内の商店街の盆踊りや季節ごとのイベントなど市内の行事が主でしたが、1年を通しての活動を目指したいと、会結成の翌年から独自の組太鼓を作曲構成して季節と地域にとらわれない活動を展開しています。また、毎年楽曲には少しずつ編曲を加えながらオリジナリティーを出しています。

2001年からは毎年、24時間テレビ「愛は地球を救う」に賛同し、市内の新聞販売店とともに募金活動に協力し、募金会場でボランティアによる太鼓の演奏を続けています。また、地域の防犯・防災活動に貢献したことが認められ、今年5月には警視庁生活安全部長より表彰されました。

警視庁生活安全部長からの表彰状

「太鼓」という楽器のとりこ

太鼓の魅力を伺うと、「お客さんが歓喜したり、感動してくれたりと人を動かす力がある」「団体での楽しさがあり、皆が一つになるとワクワクする」など、皆さん楽しそうな様子です。また、「楽譜がないので、自分の考えで強弱に工夫ができ、力いっぱいたたくことでストレス発散にもなる」とのこと。腹の底から響く太鼓の音は、胎児がおなかにいる時に聞く母親の鼓動と近い音なので、親しみやすく心地よいそうです。

「曲をたたくには練習が必要ですが、たたけば音が出るので、最初は好きなようにたたいています。そうすると『リズムに合わせて演奏したい』『組太鼓の演奏ができるようになりたい』などの気持ちが芽生え、いつの間にか太鼓のとりこになってしまうんです」と皆さんは笑いながら話されます。

地域交流と奉仕活動

「ボランティア精神を大切にしている」という舞流太鼓。具体的にどのような活動をされているのでしょうか。

「年間40件程の依頼があり、小学校や高齢者介護サービス施設でも演奏会などの活動をしており、皆さんとても盛り上がってくれます」と会員の皆さん。「先日も信愛の園という施設の夏祭りに呼んでいただきました。雨が降り外で演奏できなかったのですが、急きょ入所者がいらっしゃる室内で行うことになり、皆さんの目の前で演奏しました。なかには寝たきりの方や言葉が話せない方もいらっしゃいましたが、相手から楽しいという気持ちがこちらに伝わり、握手を求められたりして『やって良かった』と思いました」とにこやかに話されます。

また、「うつなどによる引きこもりや退職後の趣味などにも太鼓は効果があると思います。何か役に立てればと思いますが、そういった方たちを誘い出す機会がないので、第一歩として、太鼓をたたいたことがないような人たちに体験してもらうイベントを企画しても喜んでいます」とのこと。皆とても太鼓の面白さを知ってもらったり入会してくれたりするそうです。

清瀬けやきホールでの演奏会

市民まつりに向けて

昨年は大雨で演奏ができなかった市民まつり。今年は2年分の思いが込められているそうです。意気込みを伺うと、「市民まつりでは、流し踊りの時の音楽に合わせてたたく盆太鼓がメインです。簡単そうに見えますがリズムに合わせてたたくのが難しく、しっかり練習しないとずれてしまいます。踊る人が気持ちよく踊れるよう、プレッシャーを感じながらリズムを崩さないように練習し、その成果を本番でどう出せるかということを考えています」とのこと。

「たくさんの人のなかでたたくので緊張しますが、お客さんが陽気になり拍手してくれたりすると、爽快感や、やりがいを感じます。今年も楽しみにしていてください」とほほえみます。

オリジナリティー

他の団体にはない新しいものを目指しているという皆さん。こだわりがいくつかあるようです。

「お釈迦様の言葉に『天上天下唯我独尊』とありますが、これは『自分と人々がそれぞれ唯一無二のかけがえのない尊い存在であり、尊い生命である』という意味で、『皆違ってこそ個性であり、それで良い。お互いにそれぞれ尊い存在であり命である。お互いの違いを認め理解し合うことが大切』という教えです」と澤田さん。その教えから、舞流太鼓は独創的で個性的な和太鼓演奏を目指すため、常に半てんの胸の内にその言葉を刻んで演奏しているそうです。

会員用（左）と会長などの役員用の半てん。ただ1点の赤色は命が通っていることを表します

声を掛け合い冷静を保つ

本番前には、「今までやってきたことを表現できるか」「納得したたたき方ができるか」ということを考えるとのこと。納得したたき方ができると、見た人も「良かった」と言ってくれ、うまくいかなかった時は、お客さんの反応もいま一つなのだそうです。

「太鼓は自分の気持ちが素直に反映されるので、演奏前は慎重かつ冷静になるように心を落ち着かせています。慌ててしまうと曲が速くなりリズムが崩れますし、全体的なバランスが崩れてしまうのでいい曲にはなりません」と皆さん。お客さんの人数や会場が大規模になればなるほど、プレッシャーや意気込みが空回りし、たたき始めた時に早くなってしまうとのこと。それは太鼓をたたく上で一番いけないことだそうで、そうならないように「落ち着いていこう」などと皆で声掛けを行い、最初からテンポの良いリズムでたたくことができるよう心がけているそうです。

地域の輪を広げたい

今後はどのような活動を目指していくのでしょうか。皆さんに伺うと、「太鼓を通し、地域の輪を更に広げていきたい」「太鼓は人と人とのつながりも作れますし、地域のアピールにもなると思います。人付き合いが苦手でも、太鼓でなら自分を表現できる人もいるはずです。皆にさまざまな可能性を教えていきたいです」と教えてくれました。

また、「清瀬は福祉にも力を入れているので、太鼓が高齢の方々などが元気になるような活動に役立てばと思います」と話されました。

※舞流太鼓の皆さんは、9月15日㈪にコミュニティプラザひまわりで行う敬老大会でも演奏します。お気軽にお越しください。

写真を貼って作成した「舞流太鼓の歴史」

一緒に太鼓をたたきませんか

7月～12月は毎週イベントがあり、1月～6月は新しい組太鼓の構成作りなどをします。

日時　月4回木・日曜日午後5時30分（木曜日は午後7時30分）～9時30分

場所　下宿地域市民センター他

※詳しくは左記へ。

問合せ　舞流太鼓事務局・穐本☎491・6528